

信濃川水系河川整備計画

第1回千曲川・犀川沿川自治体懇談会 議事要旨

開催日時：平成20年10月20日（月） 14：00～16：00

場 所：メルパルク長野 3階「白鳳」

議事次第：1. 開会

2. 挨拶

3. 議事

① 河川整備基本方針、河川整備計画について

② 信濃川水系河川整備基本方針の概要

③ 千曲川・犀川の現状と課題

4. 閉会

○ 議事

（長野市）

- 長野市で問題なのは、立ヶ花の狭窄部である。下流地域に無堤地区があり、水害に遭われていることは十分承知をしているが、何としても立ヶ花の治水基準点での洪水時の水位を10cmでも、5cmでも下げていただききたい。
- 支川の内水排除をできるかできないかは、立ヶ花の水位にかかっている。
- 上流で水をできるだけ流さない対策もあるのではないか。過去の例でいくと、犀川の上流地域には発電を中心としたダム群もあり、災害時にこれを治水目的で利用していただいた経過もある。そういうことをもう少し世間にアピールをしていただき、さらに発電専用のダムであっても洪水時には使っていただきたい。
- 上流では、できるだけ下流に流さない対策をとっていただき、その中で立ヶ花から下流についても、できるだけ水を流せるよう対策を講じていただきたい。

（事務局）

- 立ヶ花狭窄部の問題は、非常に大きな課題として、現状をよく認識している。
- ダムの新設については、ここで回答はできないが、まずは河川の整備が重要と考えている。既設ダムの利用については、平成18年の洪水においても、実は発電ダムにかなり協力して頂いた実績がある。しかし、ある条件が整った段階で協力していただくといった下地はできているが、いつでもできるというわけではない。調整が必要という課題意識は持っている。

（須坂市）

- 立ヶ花を含めた狭窄部についての対応をお願いしたい。
- 現状として、堤防が未完成の部分もあるので、その地区の完成を是非お願いしたい。
- 八木沢樋門工事の際に堤防断面を確認させていただいたが礫混じり状態であった。

漏水対策について非常に力を入れていただいていると認識しているが、引き続きお願いしたい。

- 須坂市内にある排水機場のほとんどが、農業関係の湛水防除を目的に設置されたものであるが、都市化が進み生命・財産を守るという考え方になっており、内水についても、対策を立てていただきたい。
- 住民等の川の利用の仕方として、川の大切さ、自然とのふれあいといったことを総合的に踏まえて、できればボート等が発着できるような、親水といった利用方法を考えていただきたい。

(事務局)

- 堤防の漏水対策については、課題として認識している。
- 内水対策については、支川の管理者が計画を立てることになっており、具体的には管理者と調整していくことになる。
- 川の利用については、市町村の皆様と調整・協力して進めていかなければならないと考えている。

(飯山市)

- 昭和57年、58年に大きな水害を経験したということで、飯山市では河川の関係について非常に大きな関心を持っている。
- 2年連続の洪水後、千曲川の激特事業で大きな投資をいただき、従来の堤防から2m~2.5mの嵩上げをしていただいた。その後も、桜つつみ工事等により強固な堤防が完成している。平成18年7月洪水では、昭和58年洪水に次ぐ過去2番目の洪水であったが、堤防の破堤はなかったということで、河川改修が非常に効果があった。
- 流下能力については、現在の堤防嵩上げだけでは不十分であり、狭窄部の開削という問題がある。河川改修の中で優先順位をつけるとすれば、下流の戸狩狭窄部から手をつけていただきたい。
- 県管理区間について直轄編入要望をしており、上流、下流水系一貫で国に管理をしていただきたい。
- 樹木の伐採や中州の除去の問題、河床整備の問題、それから特に河川敷については、アレチウリの関係等もあるが、荒廃農地、荒れている土地がかなりあり、そういった問題は、地元も含め管理していくことも大事だと考えている。

(事務局)

- 昭和57年、58年洪水について、激特事業の効果があったということで、再度災害防止は非常に重要な施策であると考えている。
- 県管理区間の直轄化については、政府全体で大きな議論をされているところということで、その動きを見ながら対応していきたい。整備計画については、直轄区間ということで議論をさせていただいているが、新たな議論があれば、当然そこを反映させたかたちで皆様に話題を提供させていただく。県管理区間と直轄管理

区間の整合も図っていきたいと考えている。

(中野市)

- 立ヶ花狭窄部上流に篠井川が合流しており、篠井川の上流部で湛水し被害が出ていることもあり、狭窄部の開削をお願いしたい。
- 笠倉等をはじめとした無堤地区があるので、まずは無堤地区の解消、引き続き狭窄部の解消を進めていくようお願いをしたい。

(生坂村)

- 生坂村の直轄部分で引堤計画（小立野地区）があるため、今の堤防は暫定的なものとなっているが、今後の整備について整備計画の中で検討していただきたい。
- 下生野から小立野間にかけて、県道があり山つき区間として護岸が整備されていないため、徐々に洗掘される状況にある。県道は、生活道路になっており、これが決壊したりすると住民の生活が著しく脅かされることから、護岸の整備も計画に入れていただきたい。
- 犀川の中抜け区間についても、国の直轄で管理をお願いしたい。

(事務局)

- 整備計画では、具体的な場所や断面を決定することになる。地元の方がどういう要望を持っているか、市町村の皆さんからお聞かせ願いたい。
- 整備計画については、概ね 30 年での計画であり、当然、財源が伴う計画である。要望がすべてできるというかたちにはならず、どうしても優先順位をつける必要が出てくることも承知していただきたい。

(木島平村)

- 現状として、樽川における千曲川のバックウォーターが大変問題となっているため、対策をしていただきたい。
- 整備計画の中で要望していききたいのは、狭窄部の問題をどうするのかということである。実際の川のことからいえば下流から、戸狩狭窄部から整備していただきたい。
- 整備にあたっては、上・下流でよく対話をしたうえで整備をしていくことが必要ということは認識しているが、狭窄部の間に挟まった木島平村としては、遊水地化を認められているという思いがある。
- 樽川では、100年に一度ではなく、千曲川の出水が起こる度に、バックウォーターによる農地浸水が常態化している。これを何とかするには、整備計画で対応していただかなければいけない。

(事務局)

- バックウォーターの件については、承知しているが、狭窄部の上流で起こるため、狭窄部を広げれば、水位は下がることはわかっている。
- 上下流バランスの問題もあるため、頂いた意見を踏まえ案を作成し提示する。
- 遊水地化については、そのようなことは考えておらず、堤防が無い箇所について

は堤防を整備していく。

(安曇野市)

- 犀川について、三川合流点はワサビの栽培や遊水池に白鳥がきており、地域の皆様に大変親しんでいただいている。
- 三川合流点付近も築堤計画があり、かつ低水護岸の計画もあったかと記憶している。完成堤防ができないのに低水護岸を先に整備出来ないというお話は以前から伺っているが、憩いの場として使っている部分については、低水護岸を先行して整備していただくことはできないか。
- 犀川上流は、河川勾配がきつく上流からの土砂の流出が少なくなっており、河床が低下している。河川内の樹林化と併せて対策を講じていただきたい。
- 平成 17、18 年の災害復旧で、何か所か水制工等をやっていただき、多少の効果はあったと認識している。抜本的な工事のほかに、こういった工法を取り入れ、護岸と環境を併せて、少ない費用でできるような仕事を多く取り入れていただきたい。
- 樹木管理について安曇野市の河川でもハリエンジュが樹林化し苦慮している。公募伐採は河川区域内の官地という条件があるが、河川管理上支障のある部分を大きくとらえて頂き、その区域について、市と共に官地、民地関係なく整備するように対応していただきたい。

(事務局)

- 三川合流点付近を含めた護岸の整備については、急流河川における課題として認識しているが、実態としては下流の流下能力不足箇所での整備を優先しているため、被害状況に応じた対策を取らざるを得ない。
- 河床低下が原因で取水しづらいということは、学識者会議でも意見が挙がっており、難しい問題ではあるが調査・検討を進めていきたい。
- 樹木管理については、生態学術研究会を作って、学識者と研究しており、アレチウリやハリエンジュは毎年冠水する環境を作ってやれば、活着しないということがわかってきている。公募伐採と合わせて工夫しながら進めていきたい。

(千曲市)

- 一級河川更級川と千曲川との合流部について、県管理河川で一部の堤体が低いことから、毎年のように住宅団地の一部が床下あるいは床上浸水する状況が続いている。堤防の嵩上げを県にお願いしているが、住民からは更級川排水機場の能力不足が原因ではないかと言われており、早急にポンプ増設をお願いしたい。
- 一級河川沢山川流域については、堤内地が低く、強制排水以外内水処理ができない状況である。沢山川については、県事業でセミバック堤が改修済であるが、土口水門が千曲川の水衝部にあたり、外水の上昇によってなかなか内水処理ができない状況であり、地域、流域住民から排水機場の新設をお願いしている。
- 住民にとっては、新たに計画をつくるのであれば、従前の計画に比べて整備が進

んだことが実感できるような予算措置が必要である。特に限られた予算の中では、緊急性の判断が伴った中で優先順位がつけられるが、沿川住民にとっては、自分たちの生活を守りたいというのが本音であり、是非、実のある計画にしていきたい。

(事務局)

- 予算の獲得については頑張っていきたいと考えている。
- 内水については問題意識を持っているが、予算的な問題で手当てができない状況ではある。今年さらに排水ポンプ車を1台増強して、有事のときには対応できる体制を整えている。

(信州新町)

- 当町の犀川中抜け区間の対策についても、県の河川整備計画が必要になるが、国の河川整備計画が策定されなければ、県の河川整備計画も立てられないと聞いている。また、計画策定まで2年間かかるという説明があったが、1日でも早く計画策定をお願いしたい。
- 整備計画策定の具体的な時期が分かれば、お聞かせ願いたい。

(事務局)

- 整備計画の策定スケジュールについては、骨子までが今年度、最終の策定までが来年度、おおむね2年で考えている。
- 県区間については、上下流の影響があると考えられるので、長野県と調整しながら策定していく。

(坂城町)

- 坂城町では上田市との境の右岸に無堤地区があり、現在、仮設の堤防が整備されているが、仮設とはいえ水防上、治水上からもぜひ、維持・補修という観点の中で、存置をお願いしたい。
- ハリエンジュについて、大望橋から下流、坂城大橋に向かって、視認性が非常に悪いので伐採をして頂いているが、今後も継続してお願いしたい。
- 当町は千曲川クリーンキャンペーンということで、春に1回、ボランティアの方に五、六百人出ただいて川の中のクリーンキャンペーンを実施している。引き続きその伐採が進むと、不法投棄等もだんだん減ってくると思われる。

(事務局)

- 仮設の堤防はあくまで仮設という位置づけである。

(小布施町)

- 堤外地の中の民地について、洪水時に立ヶ花上流の小布施のところに滞水するため、泥、ゴミが相当置いていかれる。この処理をするために、大きな事業を一市町村で行うのは非常に切ない。今後の整備計画の中で、堤外地の中の民地をどうするのかという方向性を出していただきたい。
- 堤外地で耕作されている方も、高齢化が進む中で、洪水が頻発すると耕作放棄と

いうことになって、河川空間が非常に荒れてくる心配もあるのではないか。

- 松川が千曲川に合流し、非常に狭い堤外水路となるが、氾濫するため非常に困っているの、そういったもの見直しもお願いしたい。
- 平成16年から進めていただいた八木沢の樋門の改築が、今年完成したが、着手前に町民の方と約束をしていただいた、八木沢川に水を流すということがまだ履行されていないので、整備計画をつくる際に、もう一度点検をしていただきたい。
- 松川と八木沢が合流した川は、昨年まで魚が泳いでいたが、今年からは魚がいなくなってしまった。河川空間が廃れていくことにもなりかねないため、対応をお願いしたい。

(松本市)

- 梓川は非常に急峻な川であり、護岸の根固めブロックといったものが非常に流されているので、整備計画の中で順次整備するようにしていただきたい。

(大町市)

- 下流域の保全ということで意見が出ているが、昨今、多発するゲリラ的な降雨の災害に対し、上流の河川も備えるようにしていただきたい。

(事務局)

- 気象変化に伴った危機管理体制を意識しており、整備計画策定時に考えていきたい。

(野沢温泉村)

- 野沢温泉村内の千曲川の管理は、県の管理であるが直接大きな被害等はない。しかし、北部地域は集落が点在していて、増水とすると農地が浸水してしまい、耕作している方が平成16年、18年の2年間、苦勞している。これより、上流と下流のバランスの取れたかたちで整備をしていただきたい。

(上田市)

- 県管理の依田川の合流点部分について、流下方向が上流に向いてしまっている状況になっている。河川改修に伴う用地の買収等は全部済んでおり防災上、特に支障はないとはいえ、小規模な集中的豪雨により支流と本流の流量比が変化する可能性があるの、それに対する改修をお願いしたい。
- 河床低下している部分があるので、低水護岸等を計画していただき、河川内の土地の有効利用を兼ねて、市民が親しむ場をつくるという計画を立てたらどうか。

(中条村)

- 中条村は県管理の犀川の一部が該当し、東京電力の笹平発電所の湛水区域になっているということで、過去には大きな洪水被害は起きていない。
- 外来種のアレチウリが近年急速に繁茂している。地域のボランティアの方々の、抜き取り作業などを行っていた経過もあるが、今では手の施しようがなくなっているため、景観に配慮するといった面を計画の中の盛り込んでいただきたい。

(事務局)

- アレチウリ等の外来種対策は非常に重要な課題であり、意見を伺った上で考えていきたい。

(波田町)

- 災害復旧をしていただいたが、3か所ほど残っている箇所があるので、予算面もあるかと思うが、順次お願いをしたい。
- 河川の不法投棄について、ハリエンジュが繁茂しているために、ごみを捨てやすいという環境にある。民地が多いので行政と話し合いながら、伐採と併せて環境整備もお願いしたい。

(栄村)

- 平成18年7月の洪水では、国交省の排水ポンプ車をお借りして、人家への被害を防ぐことができた。
- 近年、上流部での整備が進むにつれ、長野県で一番低い当村では被害が大きくなる傾向にあるので、計画の策定にあたっては、上・下流でバランスの取れた整備計画をお願いしたい。
- 湯滝橋下流から県境、新潟県の津南町から十日町までの中抜け区間を一日でも早い直轄管理の実現をお願いしたい。

(事務局)

- 直轄化については、政府で大きい議論をされているところであり、また、同盟会等で要望されている事実は認識しているので、その状況を見て今後対応していきたい。

(長野市)

- 国交省では、色々な管理を県に委ねるといった報道がされており、道路、河川にしても、県管理を多くしようとされていると思うが、千曲川・犀川にとっては絶対ありえないと考えているので、全て千曲河川事務所さんの管理にするという意気込みでお願いしたい。

(千曲市)

- 直轄管理化について、全国知事会の動きがわかったら、お話ししたい。

(長野県)

全国知事会ではないが、地方分権改革推進委員会の中で中抜け区間の議論が行われている状況である。

— 以上 —